

を計算している。この状況を表-5に示す。また、このグラフ化を図1に示す。

本事例は、組織が認証準備を進めている段階の中間評価の状況を示している。傾向的には実業務を推進する上での計画、パフォーマンス評価、それを支える支援要素整備において評価点が高く、システムの上流領域にあたるビジョン、方針、マネ

ジメントのパフォーマンス評価といったプロセスが相対的に低く評価されている。

表-4 ISO 55001 概略GAP分析による成熟度評価結果とレベル向上のための解決策

目的	目的確認のための質問	ゴール	成熟度現状	エビデンス	評価	評価基準
組織ビジョンの確認	<p>1. 組織の利害関係者のニーズおよび期待を理解して、その取組み優先度を決めているか。</p> <p>4.2 ①【利害関係者の決定】アセットマネジメントシステムに関する利害関係者を決める。 ②【要求と期待の決定】利害関係者のアセットマネジメントに関する要求と期待を決める。 ③【取組優先度の決定】利害関係者に関するアセットマネジメントの取組姿勢の決定基準を決める。 ④【記録と報告】利害関係者の次の要求事項を決める。 ・アセットマネジメントに関する財務的及び非財務的情報の記録 ・外部と内部への報告</p>	4	2	「組織目的から AM 目標、計画までのロジックモデルとその課題」に記載の文書およびマニュアル	<p>(評価理由) 「組織目的から AM 目標、計画までのロジックモデルとその課題」に記載の文書中には、対象組織の取組優先度についての体系的な記載は存在しない。また、リスクマネジメントの視点でもまとめられていない。ただし、リスクアセスメント的な視点は存在する。</p> <p>(成熟度を高める方法) 橋梁の重要度をリスクマネジメントの視点で明確にして体系的に分析する。(レベル3、4)</p>	<p>4：利害関係者も参加した議論に基づき、要求と期待が把握されている。また、取組優先度がリスクマネジメントを土台に体系的な手法で決められている。また、その取組優先度が公開され、利害関係者との議論を経て決められている。 3：利害関係者のアセットマネジメントへの要求と期待は体系的に把握されている。これを前提に取組優先度が決められている。 2：利害関係者のアセットマネジメントへの要求と期待は認識されているが、十分ではない。また、アセットマネジメントへの取組への反映は体系的ではない。 1：利害関係者のアセットマネジメントへの要求と期待は明確に認識しておらず、その結果、利害関係者のアセットマネジメントへの要求はアセットマネジメントに反映されていない。</p>

表-5 ISO 55001 概略GAP分析による総合評価実施例

プロセス	ゴール	現状評価	%評価
1 組織ビジョンの確認	4	2	50%
2 AM方針の策定	3.33	1.33	40%
3 AMSの構築のための組織整備	3.66	1.83	50%
4 AMSの構築	3.66	2	55%
5a AM計画	3.5	2.5	71%
5b 情報に関する要求事項	3	2.5	83%
6 AM計画の実施	3	2	67%
7 パフォーマンス評価(プロセス)	3	2.5	83%
8 パフォーマンス評価(マネジメント)	4	1.5	38%
9 改善	4	2	50%
10 支援要素整備	3	2.5	83%

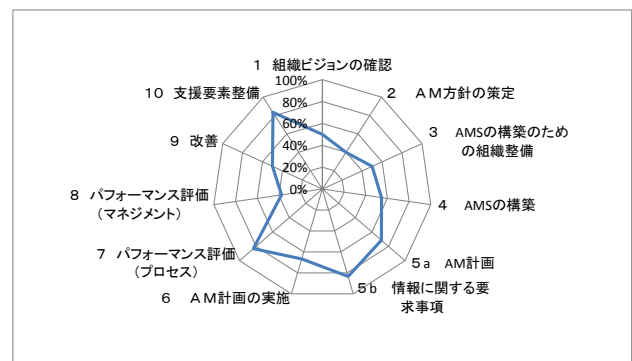


図-1 ISO 55001 概略GAP分析による総合評価実施例

(ウ) 詳細評価 (26の詳細評価項目による)

10個のプロセス単位ではなく、26個の評価項目ごとに詳細に見ると、次のように具体的な課題が見えてくる。(表-6及び図-2参照)

評価対象組織がISO認証の合格レベルかどうかは、26個の評価項目ごとにすべてレベル3を達成する必要がある。中小規模の組織では、その特性から考慮してレベル2の不十分な適合で合格とする場合があるが、大規模組織の場合、内部統制の仕組みが既に組み込まれているため厳格に評価する必要がある。また、ゴールがレベル4の場合であっても、レベル3の場合であっても、認証の合格レベルはレベル3となる。(図-3参照)

表-6 ISO 55001 概略GAP分析による総合評価実施例(詳細評価)

プロセス	NO	評価項目	成熟度		達成率
			現状	ゴール	
1組織ビジョンの確認	1	内外の課題の把握	2.0	4	50%
	2	利害関係者のニーズおよび期待を理解	2.0	4	50%
2AM方針の策定	3	AM方針、組織ビジョン、目的などの一貫性	2.0	4	50%
	4	AMSの継続的改善の反映	1.0	3	33%
	5	AM方針の見直し	1.0	3	33%
3AMSの構築のための組織整備	6	AMSを構築、運営するための体制整備	1.5	3	50%
	7	トップマネジメントの意志の貫徹	2.0	4	50%
	8	自分の役割の認識	2.0	4	50%
4AMSの構築	9	AMSの適用範囲の決定	2.0	3	67%
	10	アセットマネジメント方針、目標の組織目標、SAMPとの整合性	2.0	4	50%
	11	リスクマの特定	2.0	4	50%
5aAM計画	12	AM方針とAM計画の整合性	4.0	4	100%
	13	組織全体のリスクマネジメントとの整合	2.0	4	50%
	14	外部からの要求事項を考慮したAM計画	2.0	3	67%
	15	アウトソーシングのマネジメント	2.0	3	67%
5b情報に関する要求事項	16	的確で正確な情報処理	2.5	3	83%
6AM計画の実施	17	基準による管理と実践	2.0	3	67%
7パフォーマンス評価(プロセス)	18	目標によるプロセス管理	2.5	3	83%
8パフォーマンス評価(マネジメント)	19	内部監査の実施	1.5	4	38%
	20	マネジメントレビューの実施	1.5	4	38%
	21	体系的な改善プロセス	2.0	4	50%
9改善	22	資源管理	3.0	3	100%
	23	力業管理	2.0	3	67%
	24	認識管理	2.0	3	67%
	25	内外へのコミュニケーション力	3.0	3	100%
	26	文書管理	2.5	3	83%

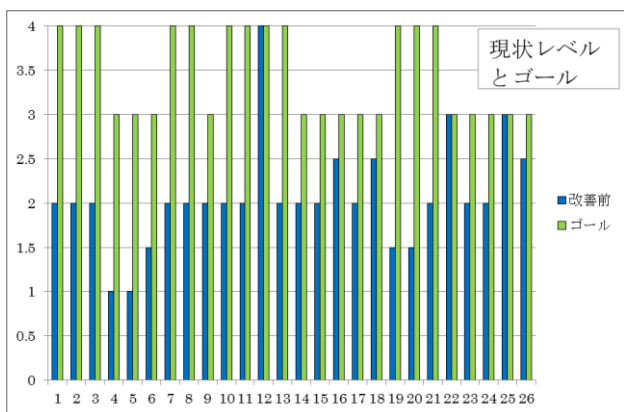


図-2 現状レベルとゴール

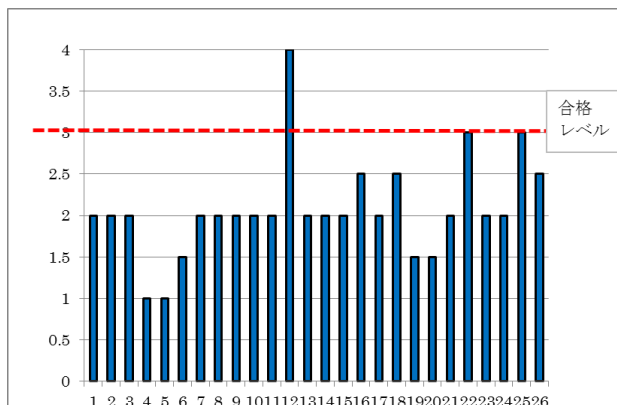


図-3 成熟度レベル評価と適合性合格レベル

5. 結言

ISO 55001 を適用しようとする組織、あるいは既に適用している組織の適合性成熟度を定量的に評価する手法として、CMMI を応用した成熟度評価手法の開発を行った。これに基づいて対象組織をプロセス毎に定量的に評価することにより、現状レベルが把握され、規格の要求を満たして認証に到達するには、あるいは業界のベストプラクティスに近づくには、どのプロセスをどの程度強化すればよいかを明らかにできることを示した。

(株)日本環境認証機構では、既に複数の顧客の要請に応じて本手法を適用した検証を実施しており、一定の評価を得ている。

今後、ISO 55001 の普及促進と認証済組織のマネジメントシステムの継続的改善に資するよう、成熟度評価手法のさらなる改善を進めていく予定である。

参考文献

- 1) CMMI での成熟度の定義は開発のための CMMI@ 1.3版 CMMI-DEV, V1.3
日本SPIコンソーシアム(JASPIC)CMMI V1.3 翻訳研究会
<http://www.sei.cmu.edu/library/assets/whitepapers/CMMI-DEV-V1.3-Japanese.pdf>

Development of maturity evaluation method in ISO 55001 conformity verification

Tomio YAMAMOTO and Hiroaki IKEDA

As a methodology for quantitatively evaluating the capacity of an organization, CMMI (Capability Maturity Model Integration), which is an evaluation index of a software development organization developed at Carnegie Mellon University, is well known.

Meanwhile, in the ISO certification business field, some degree of level evaluation that evaluates "nonconformity", "opportunity for improvement", "conformity", "good point", etc. as a method for evaluating the ability of an organization that meets the requirements of management system standards has been done. However, the subject of the evaluation is the extraction of relatively nonconformities, and the evaluation criteria of "opportunity for improvement", "conformity", and "good point" depend on the subjectivity of the judges and strictly systematic. It has not reached the evaluation. In this paper, we apply the evaluation criteria established by CMMI and outline the method to quantitatively evaluate the compatibility maturity of the organization's ISO 55001 compliant asset management system.